



知事コラム

AI(人工知能)とターミネーター

年末から正月の3日間は、私にとって数少ない連休であると同時に、年始に集中する各種団体(約50団体)との新年の集まりにおけるあいさつのネタづくりの日々でもあります。

そのネタづくりの中で目に留まった一つが、全国紙の1月1日付に掲載されていた作家の川上弘美さんのエッセーでした。川上さんは、極端に数が減って滅びかけている人類が、人工知能やクローン技術の助けを借りて、生き延びようとする未来の世界を描いた小説「大きな鳥にさらわれないよう」の著者です。その川上さんが、研究者に「AIの一番怖いところは、どこですか」と聞いてみたところ、「AIに『地球に一番いい環境とは何か』を考えさせると、『人類が最も悪影響を及ぼすので、排除しよう』という結論になる」という答えが返ってきたそうです。

私はすぐに映画の「ターミネーター」を思い出しました。軍用に開発されたコンピューター(一種の人工知能)・スカイネットが、攻撃の対象を人類に向けて、人類を滅亡させようとする物語です。この人工知能が、ものすごく強力なターミネーター(抹殺者)をつくり出し、スカイネットに対する抵抗軍のリーダーとなる子供やその母親を抹殺するため、未来から現代に送り込みます。これに対して抵抗軍は、その子と母親を守ることをプログラミングしたターミネーターを送り込み、戦い合うという物語です。

AIは情報の蓄積と解析が主な仕事ですが、囲碁の世界では創造力を発揮し、既に名人と互角に戦うことができるレベルに達しています。

科学技術の発展は我々の暮らしを豊かにしてくれますが、原子力発電所の事故に見られるよ

うに、人類がしっかりと制御しているつもりが、実は完全に制御できていなかった例もあります。

AIの機能に、絶対に人類に立ち向かわない、共に生きる技術をあらかじめ注入できないものかとも思いました。しかし、それがまた裏目に出るかもしれないということを考えると、結局のところ、やはり地球を救うのは人類しかないということなのでしょうか。



埼玉県知事 上田 清司